

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書③

都道府県・政令市名【 岐阜県 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ Ⅳ 】
2 実施対象者	八百津町立八百津中学校 第3学年（92名）
3 展開の形式	学校における活動 教科名（ 総合的な学習の時間・保健体育 ）
4 目標 (ねらい)	講話を聞いたり、車いすバスケット体験をしたりすることを通して、他者の目線で物事を考え、障がいをもった方々の立場を知ることができる。また、自分自身が社会の一員として、障がいのある方々にどのように接したらよいのか、どのような社会をつくっていったらよいのか感じ、考えることができる。
5 取組内容	①オリパラ学習オリエンテーション ②調べ学習 ○「障がいのある人がスポーツを楽しむためにはどのような工夫が必要なのか」 ○「障がいのある人とスポーツを楽しむためにはどのような工夫が必要なのか」 ③JICA 国際協力出前講座 ○青年海外協力隊 派遣国 スリランカ 職種 障がい者・児支援 内容 「日本とスリランカの文化の違いや障がい者に対する考え方の違い」 ④DVD 鑑賞 ○「オリンピック・パラリンピックに関する指導参考映像資料」「夢に向かって」を使用し、障がい者スポーツについて理解を深めた。 ⑤シッティングバレーボール体験 ○実際にパラリンピックの競技を体験し、どのような楽しみや苦労、工夫があるのかを知る。 ⑥車いすバスケットボール体験・講話 ○車いすバスケットボール体験をすることで、車いすにのっている人の目線で物事を考える。講話を聞いて、障がいのある人とどのように接していったらよいのかを考える。

	 ⑦壁新聞作成 ○調べたことや体験を通して学んだことを壁新聞にまとめた。 
6 主な成果	・「障がいのある人とスポーツを楽しむために」をテーマに調べ学習を進めることによって、障がいとは何かを知ろう、その人を知ろう、そして、一緒に考えていくことが大切だという意識が強くなった。 ・講話の中で、「海外では障がい者をよく見かけるのに、日本ではあまり見かけることがない。」という話から、障がい者を特別視したり、壁をつくったりしているのは自分たちだということに気づき、受け入れる心が大切であると知ることができた。 ・障がい者と同じようにスポーツを楽しむことができ、パラリンピックについての興味が強くなった。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	・シッティングバレーボール、車いすバスケットボール、ゴールボール等、実際に競技を体験することで、パラリンピックに対する関心を高められるようにした。 ・実際に海外で体験した人や、障がいのある人から話を聞くことで、新たな発見ができるようにした。 ・オリエンテーションのときに、最後に「壁新聞にまとめる」というゴールを提示した。作成した壁新聞を「岐阜新聞主催 かべ新聞コンクール」に出品することで、よりよい新聞を作ろうという意欲をもたせた。原稿を作成するために「〇〇を知りたい、〇〇について考えたい。」という意識を高められるようにした。
8主な課題等	・今後も毎年、障がい者スポーツを生徒に体験させるために、各種団体との連携や予算の確保を継続していかなければならない。
9来年度以降 の実施予定	・車いすバスケなど貴重な体験ができ、日頃はなかなか考えられない障がい者についての話を聞くことができるので、継続していきたい。